

中学校美術科における 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実



個別最適な学び

生徒一人一人が、造形的な見方・考え方を働かせながら、美術や美術文化との関わり方を自ら選択し、資質・能力を身に付けていく学び

「個別最適な学び」として、以下の個性*は、相互に関連しながら学びの中に表れると考えます。

見方・考え方の個性

…造形的な見方・考え方の違い

見方や感じ方の個性

…生活や社会の中の美術や美術文化、美術作品に対する意味や価値の違い

表現の個性

…美術表現における発想や構想の違い

技能の個性

…技能の習得状況や活用状況の違い



協働的な学び

生徒一人一人が、多様な他者との関わりの中で、互いの見方・考え方や感じ方、表現の意図や工夫などを交流・共有し、造形的な見方・考え方を働かせながら、美術や美術文化への理解を深めていくこと

「協働的な学び」として、以下の具体が考えられます。

見方・考え方の共有

…造形的な視点やその捉え方を互いに共有し、対話を通して見方・考え方を広げたり深めたりする

見方や感じ方の共有

…生活や社会の中の美術や美術文化、美術作品に対する他者の見方や感じ方を共有し、自らの見方や感じ方を広げたり深めたりする

表現の共有・協働

…美術表現における創意工夫を交流し、発想や構想を広げたり深めたりする

技能の共有・協働

…技能の習得や活用について、互いに交流・共有し、表現を高め合う

これらのように、様々な学び方を提供することで、生徒が自分に合った学び方や他者と関わる学び方などを選択できるようにします。

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を図るためには…題材のデザインがポイント！

造形的な見方・考え方を働かせながら、見方・考え方や感じ方、表現などを捉え直し、更新していく学びになるように題材をデザインすることがポイントです。「個別最適な学び」と「協働的な学び」の双方の学びの目的を明確にしながら往還することができるよう題材をデザインすることで、生徒は多様な他者との関わりを通して、自分の見方・考え方や感じ方、表現などを捉え直し、学びを広げ深めることができます。

このように題材をデザインしながら授業づくりを行うことで、中学校美術科で目指す資質・能力の育成につながっていきます。

*個性性…「個別最適な学び」の考え方を踏まえ、美術科の特性である見方や感じ方、表現の多様性に着目して、本研究において整理した概念のこと